

平成24年 5月15日 (火)
国土交通省関東地方整備局
鹿島港湾・空港整備事務所

記者発表資料

平成24年度 鹿島港湾・空港整備事務所の事業概要について

平成24年度の鹿島港湾・空港整備事務所の事業概要は以下のとおりです。

国内有数の鹿島臨海工業地帯における原材料及び製品の海上輸送基地として重要な役割を担っている鹿島港では、産業競争力を強化するため、大水深岸壁をはじめ防波堤の整備を進めています。また大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資等が行えるよう外港地区岸壁の耐震化を実施します。

最新鋭の海上コンテナターミナルを有する茨城港常陸那珂港区では、北関東地域と海外・国内の生産・消費地を結ぶ新たな国際物流の拠点として、コンテナ貨物や RORO 貨物の効率的な輸送に対応するターミナル及び防波堤の整備を実施します。

また平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震により被災した施設の復旧工事を、実施します。

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ
茨城県政記者クラブ
横浜海事記者クラブ
神奈川建設記者会

問い合わせ先

国土交通省 関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所

副所長 阿部 じろう

TEL 0299 (84) 7712

FAX 0299 (84) 0057

事業の概要

鹿島港は、石油化学、鉄鋼、飼料、木材などの企業群が立地する国内最大級のコンビナートの海上輸送基地であり、増加する外貿貨物に対応する公共岸壁の増強が必要となっています。

また、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模地震発生後の緊急物資輸送の確保や、企業物流を維持するための耐震強化岸壁の整備が強く求められています。

このため、外港地区において、外貿貨物の増加と輸送船の大型化に対応するとともに、大規模地震に対する耐震性能を有する新たな国際物流ターミナル(水深14m)を整備しています。

平成24年度予定

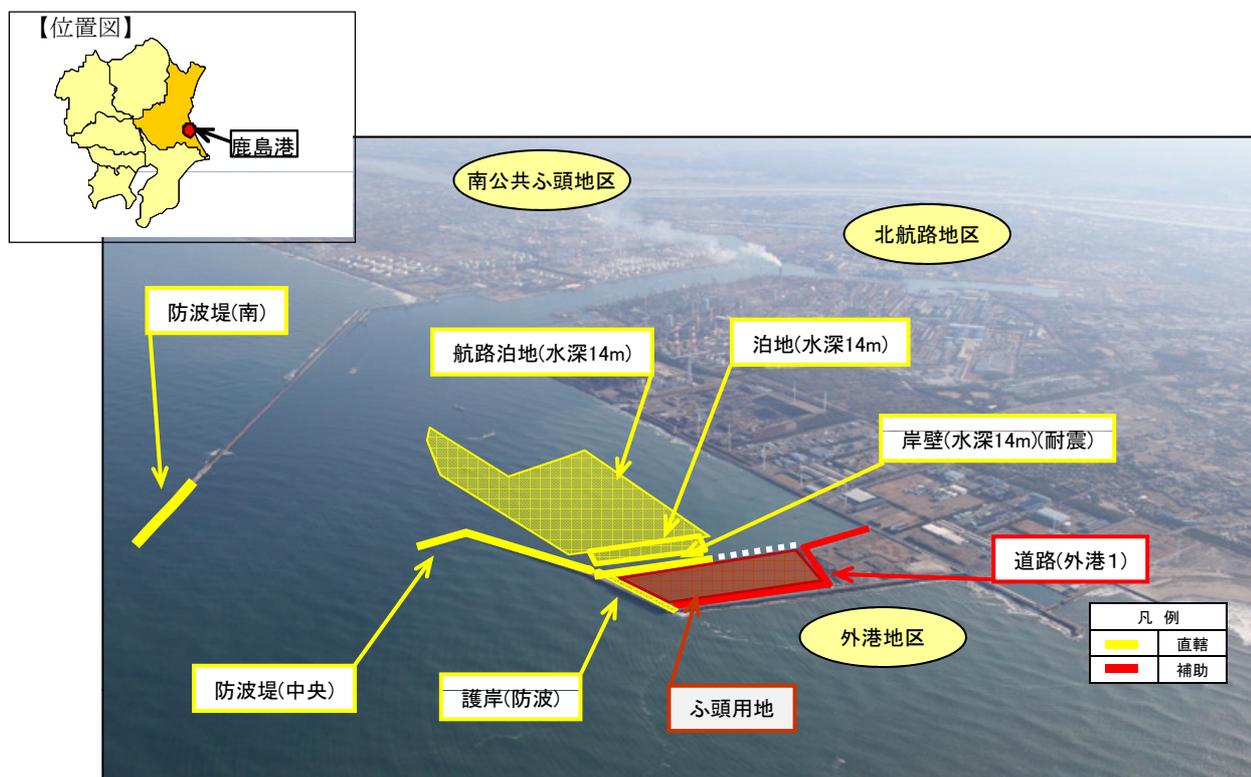
岸壁(水深14m)(耐震)上部工事、防波堤(中央)及び防波堤(南)の延伸工事を実施します。

事業の効果

新たな国際物流ターミナルの整備により、大型船による効率的な輸送が可能となり、地域産業の国際競争力が向上します。

また、防波堤の延伸を図ることにより、港内静穏度が向上し、船舶の航行安全と岸壁での荷役作業の効率性が高まります。

さらに、大規模地震の発生に際しても、緊急物資等の海上輸送機能を確保できます。



茨城港常陸那珂港区外港地区国際海上コンテナターミナル等整備事業

H24年度事業費：5.0億円

【茨城県】直轄

事業の概要

茨城港常陸那珂港区の背後圏である北関東地域(茨城県・群馬県・栃木県)は、首都圏の製造業の拠点として、工場立地が進展しており、域内等の生産・消費活動の拡大に伴い、常陸那珂港区を利用する海上輸送需要が増大しています。

このため、外港地区北ふ頭において、北関東自動車道等の広域道路ネットワークとの良好なアクセスを活かして背後圏と国内外とを結ぶ新たな物流拠点として、コンテナ貨物やRORO貨物の効率的な輸送に対応する国際海上コンテナターミナル(水深14m、12m)及び国際物流ターミナル(水深10m)を整備しています。

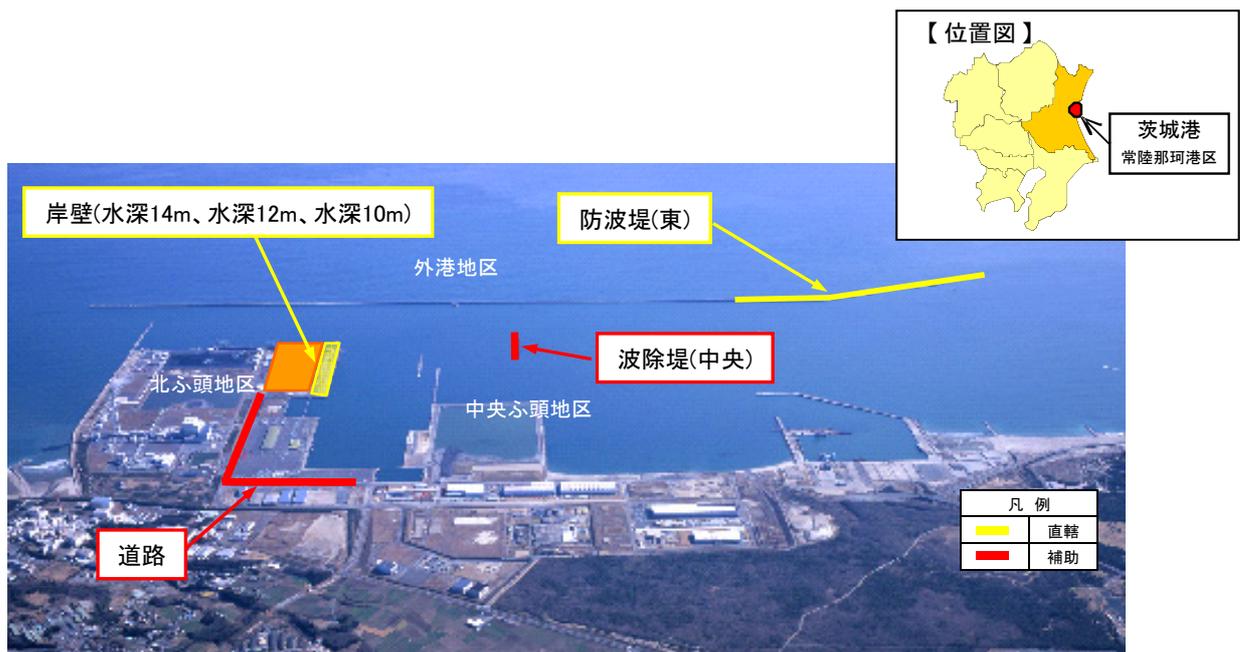
平成24年度予定

防波堤(東)の延伸工事を実施します。

事業の効果

国際海上コンテナターミナル等の岸壁は既に供用しており、背後圏の立地企業の物流活動に利用されています。また、直背後に立地する建設機械メーカーの工場から大型建設機械が自走して直接船積みできることから、物流コストとCO₂の削減が図られており、企業の国際競争力が向上しており、さらなる工場拡張計画が進展しています。

このような企業活動の支援として、防波堤の延伸を図ることにより、港内静穏度が向上し、船舶の航行安全と岸壁での荷役作業の効率性が高まります。



茨城港常陸那珂港区中央ふ頭地区国際物流ターミナル整備事業

H24年度事業費:1.0億円

【茨城県】直轄

事業の概要

茨城港常陸那珂港区においては、近年、直背後に大手建設機械メーカーの製造工場が立地するとともに、中古自動車の整備工場が進出するなど、企業立地が相次いでおり、建設機械や中古自動車の輸出を中心とする外貿RORO貨物の一大輸送拠点となっています。また、建設機械メーカーの工場拡張計画が進展しており、今後も外貿RORO貨物の増大が見込まれています。

一方、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模地震発生後の緊急物資輸送の確保や、企業物流を維持するための耐震強化岸壁の整備が強く求められています。

このため、平成24年度から、建設機械等の世界的な需要拡大に伴う外貿RORO貨物の増大に対応するとともに、大規模地震に対する耐震性能を有する新たな国際物流ターミナル(水深12m)を整備します。

※RORO：ROLL ON ROLL OFFの略。貨物をトラックやフォークリフトで積み卸す水平荷役方式をいう。

水平荷役方式の貨物船(RORO船)は、船尾や船体の側面にトラック等の出入り用の開閉扉を有する。

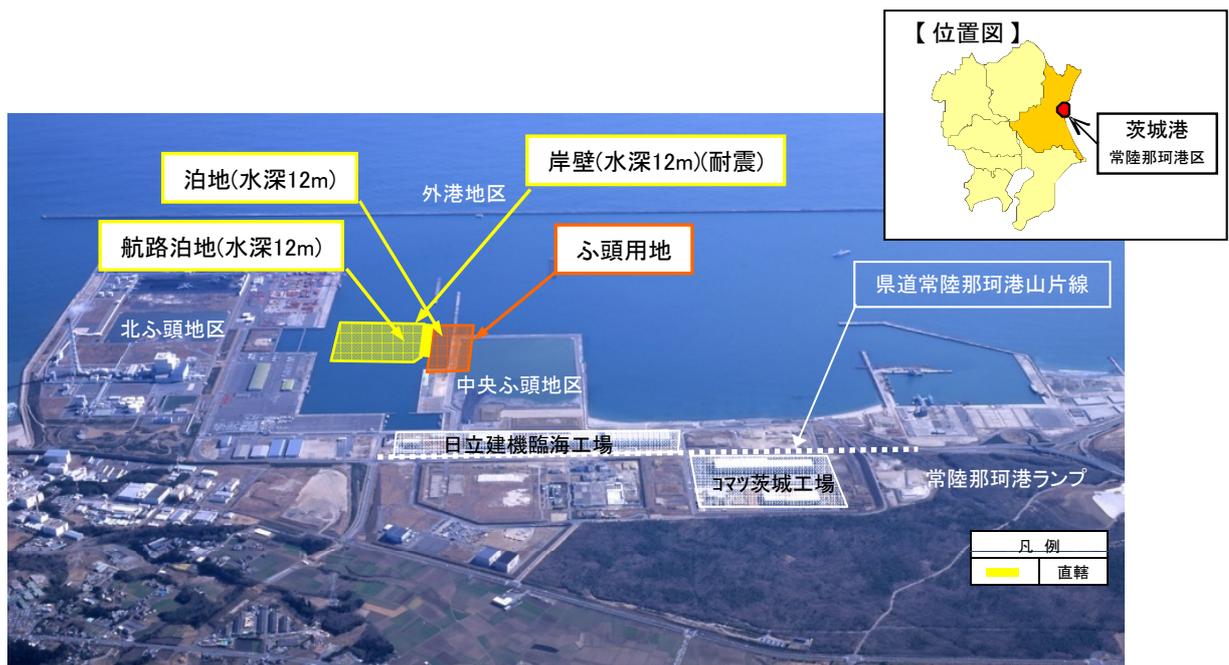
平成24年度予定

岸壁(水深12m)(耐震)の設計を実施します。

事業の効果

新たな国際物流ターミナルの整備により、大型RORO船等による効率的な輸送が可能となり、地域産業の国際競争力が向上がします。

また、大規模地震の発生に際しても、緊急物資等の海上輸送機能を確保できます。



茨城港大洗港区 復旧工程計画

平成24年5月14日

■ : 応急復旧工事
 ■ : 暫定供用
 ☆ : 災害査定
 ■ : 本格復旧工事
 ■ : 供用

番号	施設名	水深	主な取扱品目	平成23年度												平成24年度									平成25年度以降
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
①	第1ふ頭	岸壁	水産品	☆												暫定利用可能									
②		物揚場	水産品													■									
③		先端護岸波除堤	水産品	☆																					
④	第2ふ頭	岸壁	水産品	☆												■									
⑤	第3ふ頭	G岸壁	製造食品・飲料、雑貨製材、バルブ、鉄鋼	☆ 6/6～(吃水6.8m)												■									
⑥		H岸壁	製造食品・飲料、雑貨製材、バルブ、鉄鋼	☆												■ 暫定供用									
⑦	第4ふ頭	岸壁	砂利・砂、化学肥料	3/24～(吃水5m) ☆												■									
⑧	中央航路・泊地		-8m	☆												■ 暫定利用可能									
⑨	マリーナ	浮棧橋・クレーン	-	☆												■									



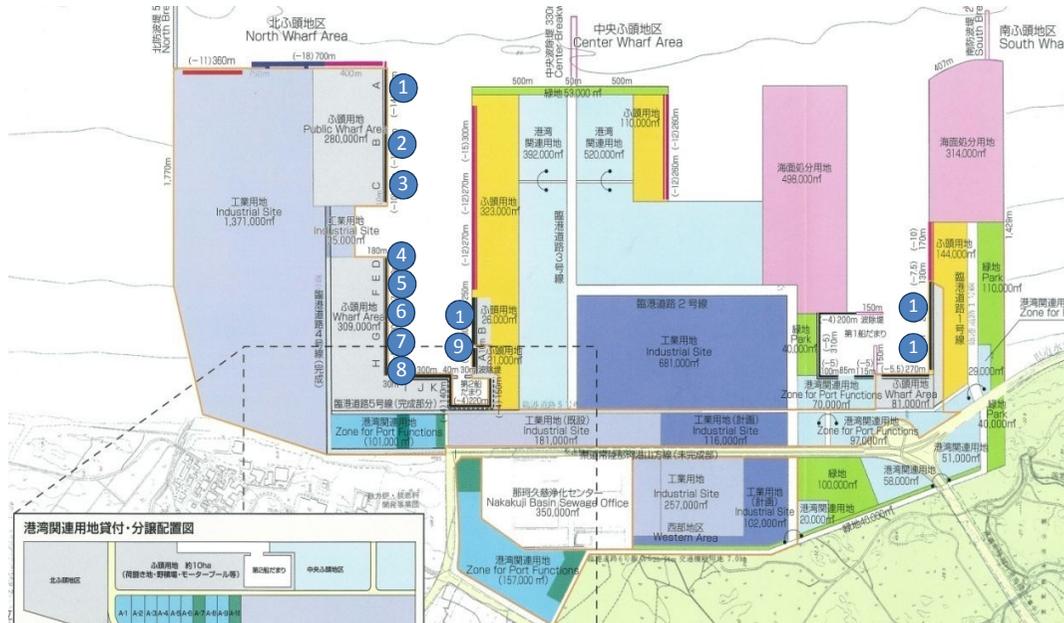
※鹿島港湾・空港整備事務所は茨城県と共同して、鹿島港及び茨城港の復旧事業を実施しております。

茨城港常陸那珂港区 復旧工程計画

平成24年5月14日

■ : 応急復旧工事
 ■ : 暫定供用
 ☆ : 災害査定
 ■ : 本格復旧工事
 ■ : 供用

番号	施設名	水深	主な取扱品目	平成23年度									平成24年度									平成25年度以降					
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9		10	11	12	1	2
①	北ふ頭 (外貿)	A岸壁	紙・パルプ 産業機械					☆																			
②		B岸壁	産業機械 シャーン																								
③		C岸壁	産業機械、非鉄金属 完成自動車																								
④	北ふ頭 (内貿)	D岸壁	完成自動車 紙・パルプ、製造食品																								
⑤		E岸壁	完成自動車 紙・パルプ、製造食品																								
⑥		F岸壁	完成自動車 紙・パルプ、製造食品																								
⑦		G岸壁	産業機械																								
⑧		H岸壁	産業機械																								
⑨	中央ふ頭	A岸壁	完成自動車 (耐震) 製造食品、紙製品																								
⑩		B岸壁	シャーン 製造食品、紙・パルプ																								
⑪	南ふ頭	B岸壁	鉄くず(スクラップ)																								
⑫		C岸壁	化学薬品																								



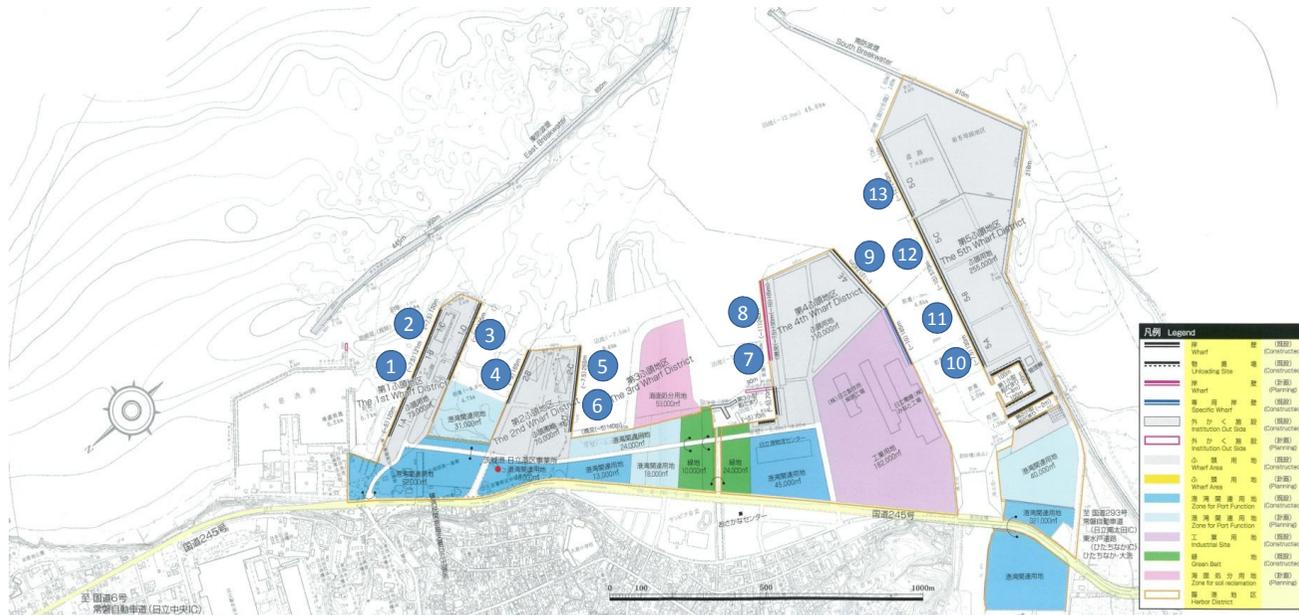
※鹿島港湾・空港整備事務所は茨城県と共同して、鹿島港及び茨城港の復旧事業を実施しております。

茨城港日立港区 復旧工程計画

平成24年5月14日

■ : 応急復旧工事
 ■ : 暫定供用
 ☆ : 災害査定
 ■ : 本格復旧工事
 ■ : 供用

番号	施設名	水深	主な取扱品目	平成23年度												平成24年度									平成25年度以降	
				4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		1
①	第1ふ頭	B岸壁	-7.5m	石油製品、重油	4/2~(吃水5.5m) ☆																					
		C岸壁	-7.5m	石油製品、重油	3/29~(吃水5.5m) ☆												暫定利用可能									
		D岸壁	-10m	石炭	6/1~(吃水6m) ☆												暫定利用可能									
④	第2ふ頭	B岸壁	-9m	非金属鉱物 非鉄金属	3/20~(吃水6m) ☆																					
		C岸壁	-7.5m	非金属鉱物 砂利・砂、コークス																						
		D岸壁	-7.5m	非金属鉱物 砂利・砂、コークス																						
⑧	第4ふ頭	C岸壁	-7.5m	非鉄金属 電気機械、金属製品																						
		D岸壁	-10m	シヤーン 化学工業品																						
		E岸壁	-12m	生乳、製造食品 再利用資材	5/9~(吃水9m) ☆																					
⑪	第5ふ頭	A岸壁	-7.5m	金属くず																						
		BC岸壁	-10m	非鉄金属 シヤーン、金属くず													暫定利用可能									
		D岸壁	-12m	完成自動車	3/20~(吃水9m) ☆																					



※鹿島港湾・空港整備事務所は茨城県と共同して、鹿島港及び茨城港の復旧事業を実施しております。

平成24年度 鹿島港 事業概要

鹿島港の概要

石油化学コンビナート企業群、製鉄関連企業群、穀物飼料企業群などを擁する鹿島臨海工業地帯において、鹿島港は立地企業の原材料や製品の海外輸送基地として重要な役割を担っています。平成23年5月には国際バルク戦略港湾(穀物の部)に選定されました。

また、近年の企業の事業再編・効率化や物流体系の見直しなどの流れから、東京へ1時間余りで連絡可能な鹿島港は、これまで京浜一帯で扱われていた一般公共貨物のシフト先としての役割も期待されています。

平成18年2月には北公共ふ頭1にガントリークレーンを備えた多目的バースも供用開始され、首都圏の物流を担う物流港湾として、今後増加が予想される公共貨物や大型船舶に対応するため、公共ふ頭の整備が進められています。

鹿島港の沿革

- 1963(昭和38)年 重要港湾に指定される
- 1965(昭和40)年 中央航路掘削開始
- 1969(昭和44)年 第1船入港
 - 開港法に基づく開港となる
 - 検疫法に基づく指定港になる
- 1978(昭和53)年 南公共埠頭一部供用開始
- 1991(平成3)年 南公共埠頭完成
- 1993(平成5)年 鹿島港外港地区(-14m)岸壁建設に着手
- 1994(平成6)年 北公共埠頭建設着手
- 1999(平成11)年 北航路掘削開始
- 2002(平成14)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、1バース目)
- 2004(平成16)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、2バース目)
- 2006(平成18)年 北公共埠頭一部供用開始 (-10m岸壁、3バース目)

- 2008(平成20)年 内航フリーゲーター航路開設
 - 横浜港でOCLの横濱港に接続
 - 東南アジア航路に接続
- 2010(平成22)年 重点港湾に指定される
 - 国際バルク戦略港湾へ応募
- 2011(平成23)年 外港定期コンテナ航路再就航
 - 国際バルク戦略港湾(穀物の部)に選定
 - 外港地区耐震強化岸壁(-14m)着工

■入港船舶隻数(平成22年) 13,890隻

■鹿島港の港湾空間の規模(平成23年3月)
 港湾区域 5,212.2ha
 臨港地区 2,494.2ha



開発前の海岸線



昭和40年 中央航路掘削開始



昭和43年頃の鹿島港中央航路開削の様子

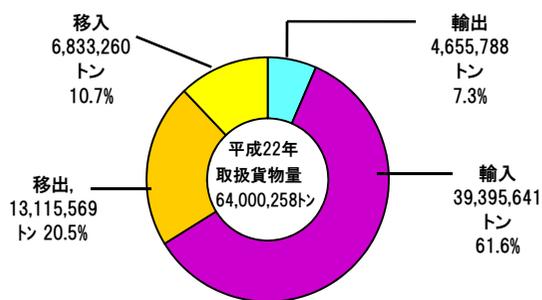


現在の 中央航路

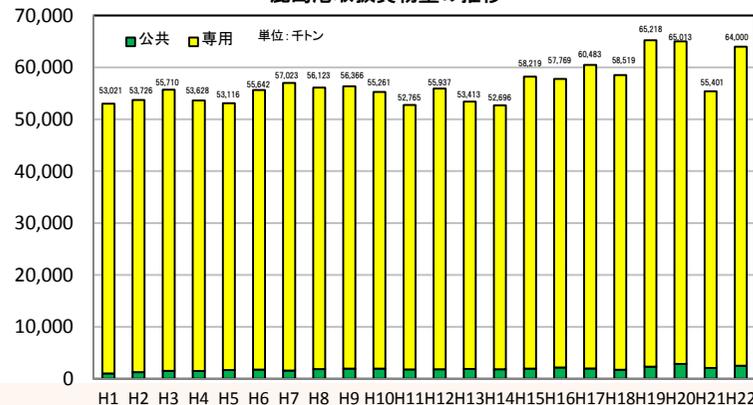


現在の 鹿島港全景

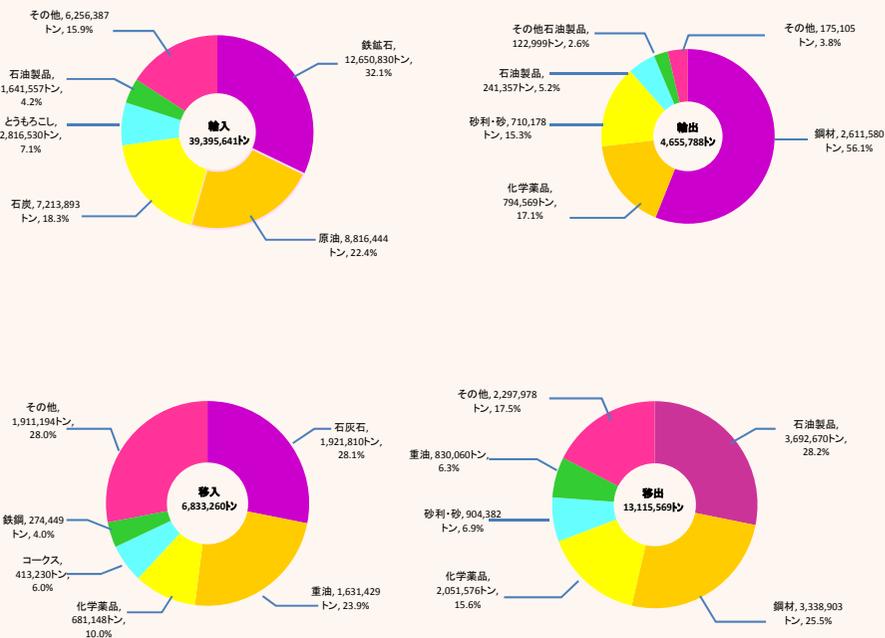
貨物別構成



鹿島港取扱貨物量の推移



平成22年鹿島港取扱貨物の品種



原油タンク

製鉄工場

穀物サイロ

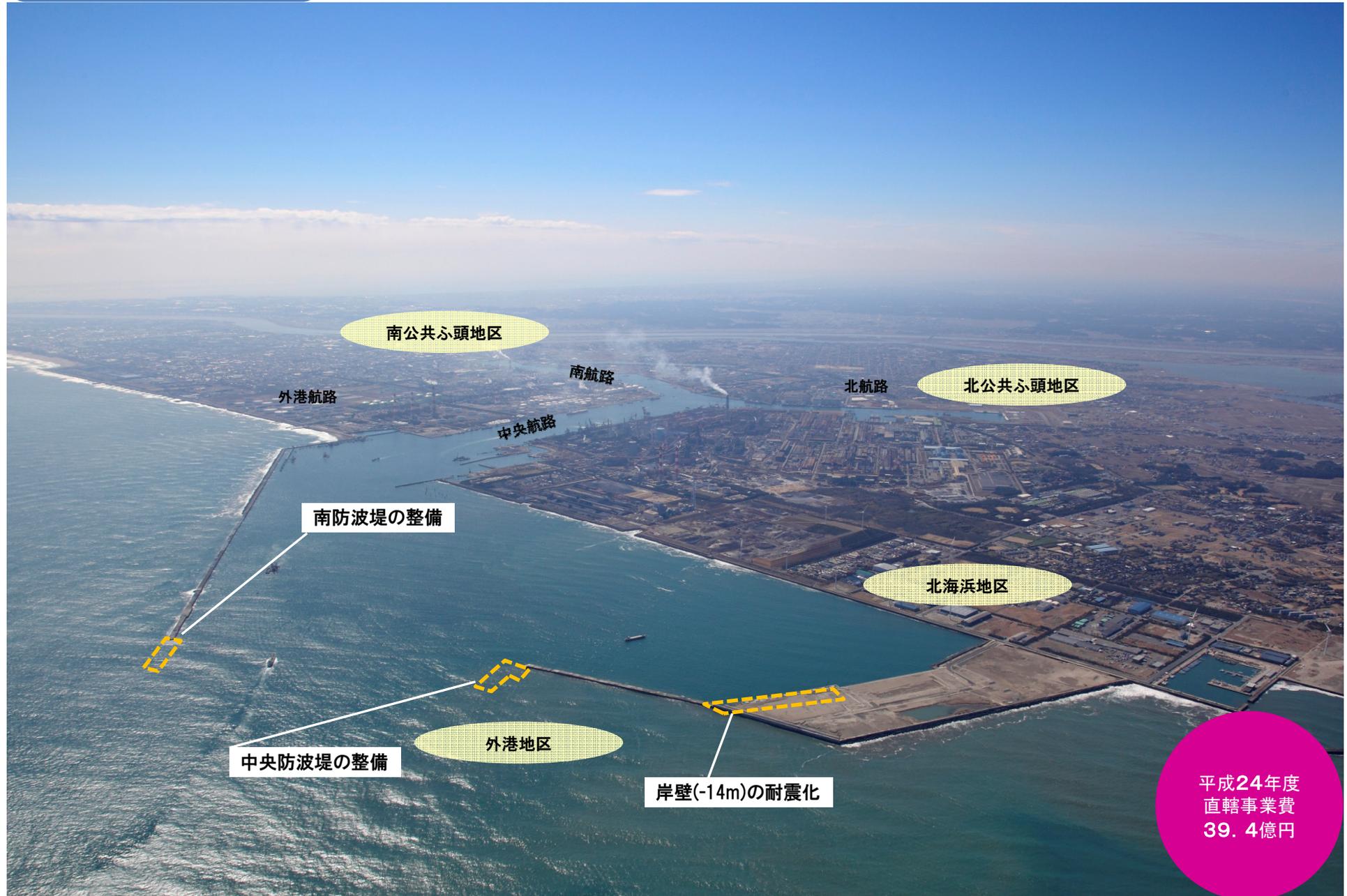
石油コンビナート



国土交通省 関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所
 TEL:0299-84-7711 FAX:0299-82-1673
<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kashima/>

平成24年度の整備概要

- 外港地区においては大規模な地震が発生した場合に、被災直後の緊急物資、避難者等を輸送するための機能を確保するべく岸壁(-14m)を耐震化の整備を実施します。
- 外港地区や港内の静穏度を向上させるため、中央防波堤・南防波堤の整備を促進します。



平成24年度
直轄事業費
39.4億円

平成24年度 茨城港 常陸那珂港区

事業概要

■常陸那珂港区の概要

北関東自動車道の整備(平成23年3月19日)に開通区間が開通により、常陸那珂ICから栃木県宇都宮市までは約1時間、群馬県高崎市までは約1時間30分で行くことができます。

最新鋭の海上コンテナターミナルを有する茨城港(常陸那珂港区)は、栃木県を経て群馬県に至る北関東自動車道整備と併せ、東西方向の新しい物流ルートを形成し、北関東を中心とした首都圏における物流の合理化再編と発展に大きく貢献していくものと期待されています。



昭和62年



平成6年8月



平成10年12月 常陸那珂港供用開始



現在の北ふ頭地区

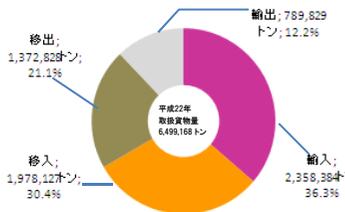
■常陸那珂港区の沿革

- 1983(昭和58年) 重要港湾に指定される
- 1992(平成4年) 東防波堤1号函据付
- 1989(平成元年) 作業基地整備着工
- 1993(平成5年) 北ふ頭地区着工
- 1998(平成10年) 北ふ頭地区内貿バース供用開始第1船入港
- 2000(平成12年) 北防波堤工事着工
- 2001(平成13年) 北ふ頭地区外貿バース供用開始
- 2001(平成13年) 中央ふ頭地区本格着工
- 2003(平成15年) 開港法に基づく開港となる
- 2003(平成15年) 常陸那珂火力発電所本格稼働開始
- 2006(平成18年) 中央ふ頭耐震強化岸壁(-7.5m)供用開始
- 2008(平成20年) 奥北3港(日立港・常陸那珂港・大洗港)が統合し茨城港となる
- 2009(平成21年) 中央ふ頭地区岸壁(-9m)供用開始
- 2010(平成22年) 重点港湾に指定される
- 2011(平成23年) 北九州航路を日立港区からシフト
- 2012(平成24年) 中央ふ頭耐震強化岸壁(-12m)着手

■常陸那珂港区の港湾空間の規模(平成24年3月)

- 港湾区域 2,232ha
- 臨港地区 340ha
- 入港船舶隻数(平成22年) 1,316隻

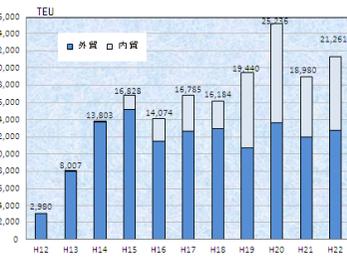
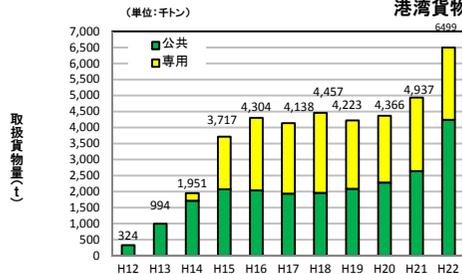
輸移出入構成



品目別構成



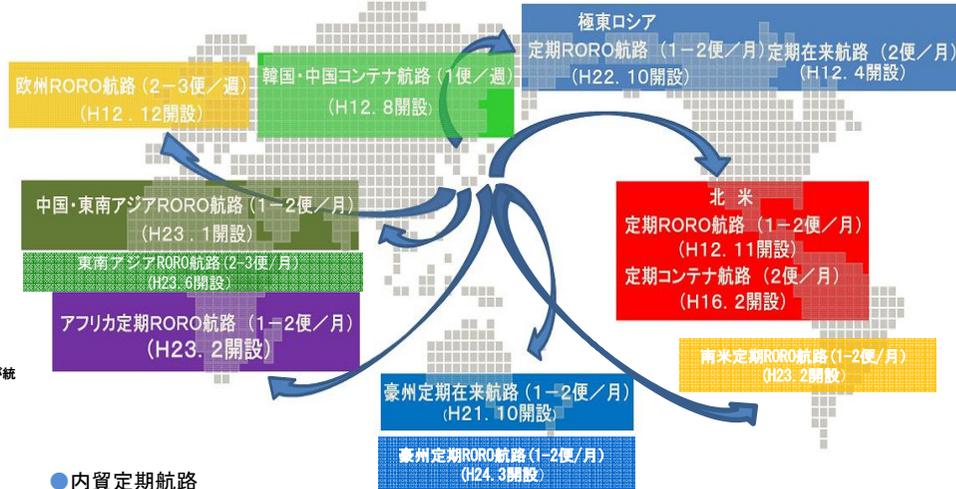
港湾貨物取扱量の推移



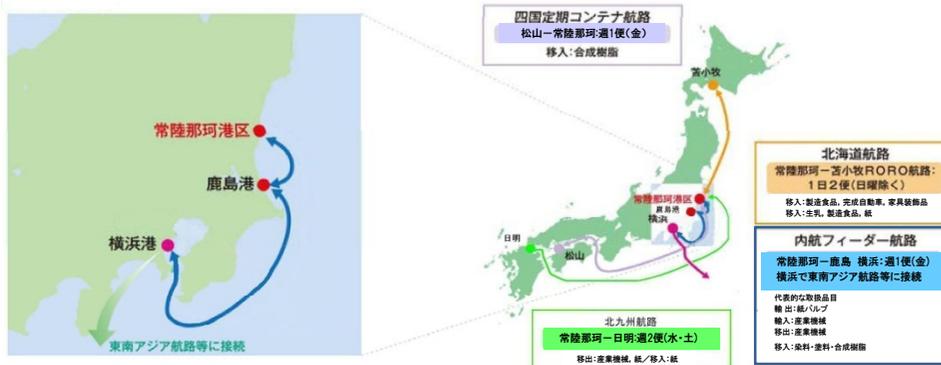
国土交通省 関東地方整備局 鹿島港湾・空港整備事務所
 TEL:0299-84-7711 FAX:0299-82-1673
<http://www.pa.ktr.mlit.go.jp/kashima/>

常陸那珂港区の定期航路

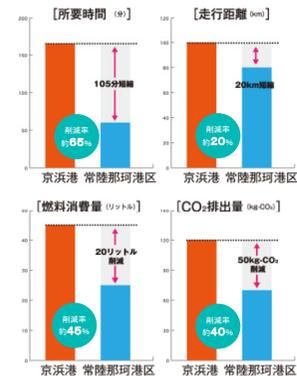
●外貨定期航路



●内貨定期航路



●茨城港は物流コストの削減とともにCO₂削減も期待できます。



北関東自動車道をはじめ、格段に良くなる道路網により、茨城港(常陸那珂港区)を利用した場合、北関東地域からの所要時間・走行距離の短縮・環境負荷の低減及びコストの削減が期待できます。

- 船舶の荷役が行いやすい静穏な港にするため、東防波堤の延伸を実施します。
- 外貨RORO貨物増大への対応及び大規模地震の発生に際しても海上輸送能力を確保するため、中央ふ頭地区耐震強化岸壁(-12m)のプロジェクトに着手します。

平成24年度の整備概要

